



新しい明日へ 主は道をつくられる



新しい明日へ 主は道をつくられる



平和のあいまつ

19
下月号
聖徒伝 178



「倒れた先に 希望はある」

イザヤ書40章

メシアにある希望

アウトライン

0. イントロダクション

I. メシアの来臨 40章1～12節

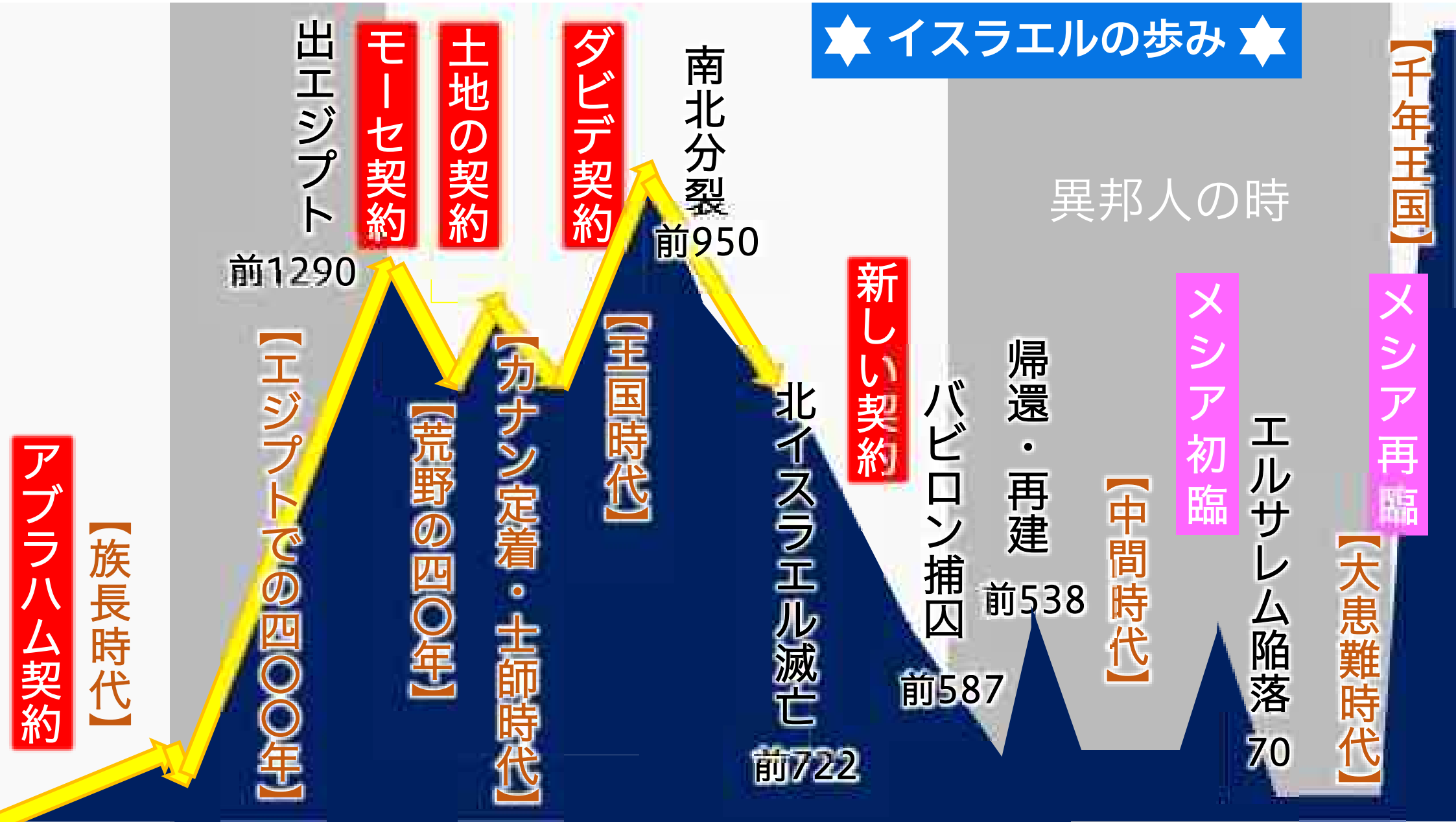
II. 神の問い・主の宣言 40章13～31節

III. まとめと適用

信仰者には 倒れた先に希望がある

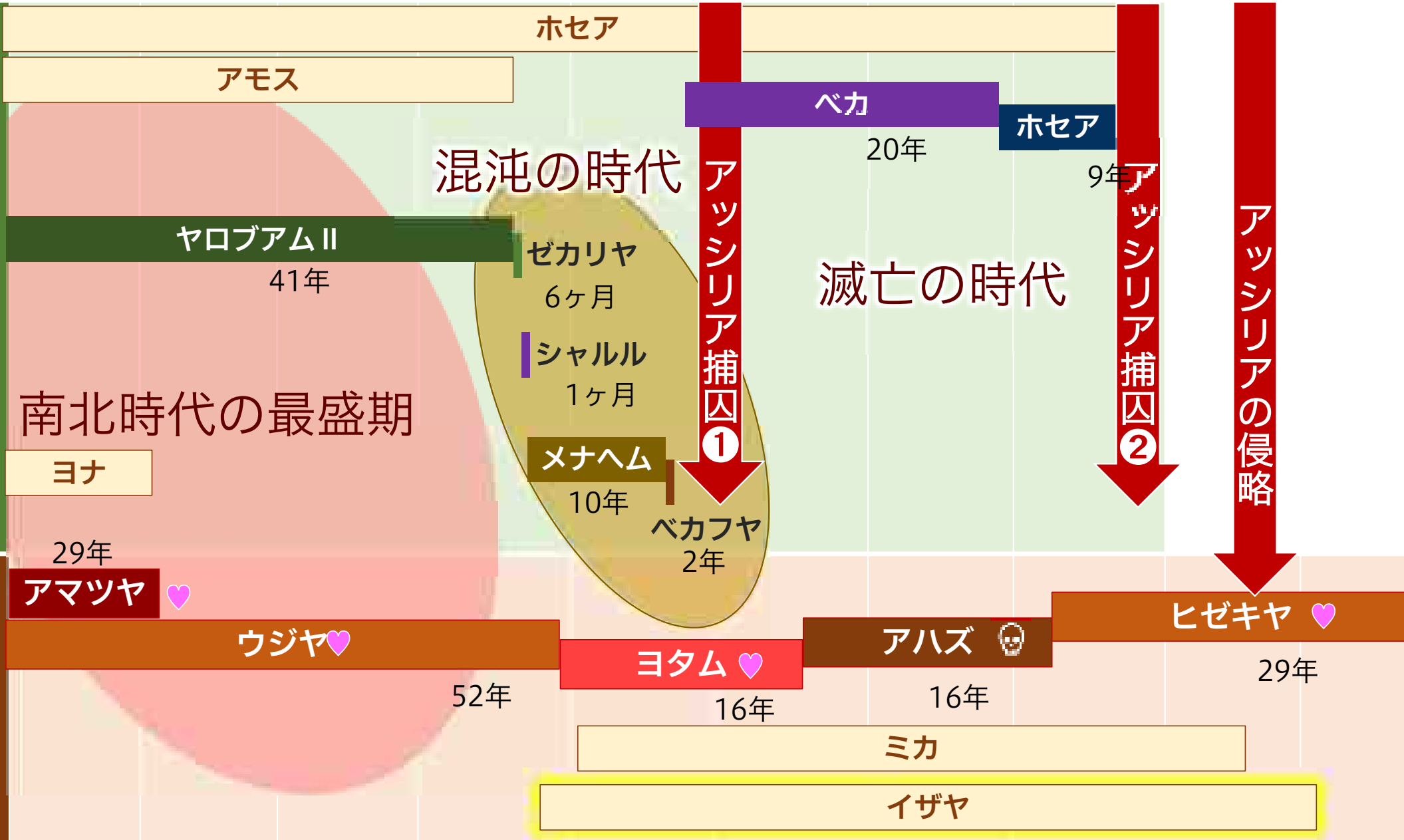


★ イスラエルの歩み ★



北王国イスラエル

南王国ユダ



イザヤ書の構成

前半	序章	1～5章	イザヤ預言のエッセンス
	イザヤの召命	6章	イザヤの預言者への召命
	インマヌエル預言	7～12章	アハズ王の危機の時代に
	国々への宣告	13～23章	周辺諸国への裁きの預言
	イザヤの小黙示	24～27章	終末預言
	危機の時代の宣告	28～35章	アッシリアの脅威のただ中で
後半	ヒゼキヤの危機の時代	36～39章	アッシリア侵略、バビロンの使者
	イスラエルの贖いと回復	40～66章	捕囚を前提とした将来の希望

イザヤ書の構成 と イザヤの生涯

■ 南北の王国が共に最盛期を過ぎた混沌の時代に召命。
南王国の4人の王に仕える(ウジヤ～ヨタム～アハズ～ヒゼキヤ)

■ アッシリアにより北王国は滅亡。南王国も危機に。

■ バビロンからの使者は、南王国の滅びを予兆。

→ 確定している南王国への裁き(バビロン捕囚)

危機と警告

■ 捕囚を前提として将来の希望が語られていく。

■ 晩年は、ひたすらイスラエルの贖いと回復を告げた。

→ 究極の希望が、メシアによる神の王国

将来の希望

前半

後半



Ⅰ. メシアの来臨

イザヤ書40章1～12節

神殿の丘

神の平和 二倍のもの イザヤ40:1~2

「慰めよ、慰めよ*、わたしの民を。——
あなたがたの神は仰せられる——

エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償われている、と。そのすべての罪に代えて、**二倍のもの***を【主】の手から受けている、と」

*二度の繰り返しはここだけ。

*イスラエルは神の長子。二倍の相続権。

➔祝福も、裁きも、二倍!!

■苦難の後に、祝福の時がやってくる!!



神の平和 先駆者 イザヤ40:3～4

“荒野で叫ぶ者”の声がある*。

「【主】の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。

すべての谷は引き上げられ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい地は平らになる。

*“バプテスマのヨハネ”によって成就。

→“最後の預言者。メシアの先駆け”

→イスラエルの民を悔い改めに導き、
“メシアを迎える備え”をさせた。



神の平和 民は草 イザヤ40:7~8

【主】の息吹がその上に吹くと、草はしおれ、花は散る。まことに民は草だ。

草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことは永遠に立つ。」

■ イエスの言葉 マタイ6:30

「今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくだらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。」

→ 乾季の東風(熱風)が草を枯らす様子から



神の平和 良い知らせ イザヤ40:9

シオンに良い知らせを伝える者よ、高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ、力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。

「良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあって、なんと美しいことか。」

イザ 52:7(ロマ10:15)

- 究極の真実の良い知らせが、メシアの福音
メシアを告げ知らせるのが神の民の使命。
- イスラエルが本来の使命に立ち返る!!

ペンテコステに始まり
大患難時代に完遂



神の平和 主の報い イザヤ40:10

見よ。【神】である主*は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の御前にある。

■ 栄光のメシア*は、王の王、主の主。

裁き主として再臨される。

- 信仰者はキリストの御座の裁きで報酬を。
- 不信仰者は、選り分けられて陰府に下る。



神の平和 真の羊飼い イザヤ40:11~12

主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、懐に抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。

だれが手のひらで水を量り、手の幅で天を測り、地のちりを升に盛り、山々を天秤で量ったのか。もろもろの丘を秤で。

- 慈愛に満ちた羊飼いのような主は、天地を統べる王でもある。

愛と義の神が、真実の平和を世にもたらす!!





II. 神の問い・主の宣言

イザヤ書40章13～31節

ヘルモン山

臨在の神 主の問い イザヤ40:13~14

だれが【主】の霊を推し量り、主の助言者として主に教えたのか。

主はだれと相談して悟りを得られたのか。だれが公正の道筋を主に教えて、知識を授け、英知の道を知らせたのか。

- 神に助言し教える者など存在するはずがない。
沈黙するしかない神の問いが続く…。
- 主になりかわって語ることの愚かしさ。
➔ 「下がれサタン」と言われたペテロ(マタ16:23)



圧倒的な
神の知恵

ヘルモン山

臨在の神 主の偉大さ イザヤ40:15～16

見よ。国々は手桶の一しずく、秤の上のごみのように見なされる。見よ。主は島々をちりのように取り上げる。

レバノン*も、薪にするには足りない。その獣も、全焼のささげ物にするには足りない。

*有名なレバノン杉は、神殿の建材にも。

■たとえ地上のすべての木々を薪にして、すべての獣を全焼の献げ物としても、創造主なる神には足りない。

絶対的な神の威厳

レバノン杉



神の平和 空虚な偶像 イザヤ40:17~18

すべての国々も主の前では無いに等しく、
主には、空しく*何もないものと見なされる。

あなたがたは神をだれになぞらえ、神を
どんな似姿に似せようとするのか。

*トーフー…「地は形なく“むなしく”(創1:2)」

■むなしい人が、むなしい物を用いて、
神を作り出そうとする、偶像のむなしさ。

地上の権威も偶像も、どこまでも空虚



ネゲブの月

神の平和 偶像 イザヤ40:19~20

鋳物師は鋳像を鋳て造り、金細工人はそれに金をかぶせ、銀の鎖を作る。

貧しい者は、奉納物として朽ちない木を選び、巧みな細工人を探して、動かない彫像を据える。

* 富者も貧者も、手段を講じて偶像を手にする。

■ 唯一の神を礼拝しない者は皆、偶像崇拜者。

欲望が生んだ虚像を拝み、空虚を埋めようと。

→ 人も創作物も自然も、自分の主義主張も、なんでも偶像にするのが、人の罪の性質。



神の平和 天地の主 イザヤ40:21～22

あなたがたは知らないのか。聞いていないのか。初めから、告げられていなかったのか。悟っていなかったのか。“地の基”のことを。

主は、“地をおおう天蓋”の上に住む方。地の住民はバッタのようだ。主は、天を薄絹のように延べ広げ、これを天幕のように張って住まわれる。

* “この世界を支える基盤”は、
この世を越えた次元に存在する。

■ “遙かな天”も、
神の住まいの素材にすぎない。



神の平和 空しい君主たち イザヤ40:23~24

君主たちを無に帰し、地をさばく者たちを空しいものとされる。

彼らが植えられ、蒔かれ、いよいよ地に根を張ろうとするとき、主はそれに風を吹きつけ、彼らは枯れる。暴風がそれを藁のように散らす。

- すべての人間の王は、死に至り、繁栄を極めた帝国もみな、滅びてきた。
- ➔ 大患難時代には、世界帝国も、世界の王・反キリストも、メシアによって滅ぼされる。



神の平和 天の万象すら イザヤ40:25～26

「それなのに、あなたがたは、わたしをだれになぞらえ、だれと比べようとするのか」と聖なる方は言われる。

あなたがたは目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方はその万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つも漏れるものはない。

■ 髪の毛一本すら主は数えられる(ルカ12:7)

神の支配が及ばない領域など、どこにも存在しない



神の平和 地の果てまで イザヤ40:27~28

ヤコブよ、なぜ言うのか。イスラエルよ、なぜ言い張るのか。「私の道は【主】に隠れ、私の訴えは私の神に見過ごされている」と。

あなたは知らないのか。聞いたことがないのか。【主】は永遠の神、地の果てまで創造した方。疲れることなく、弱ることなく、その英知は測り知れない。

■ ずっと知らされながら、真の神を知らず、簡単に見失い、不当に訴えるのが罪人の姿。

➔ イスラエルは私たち罪人の代表



神は全知全能

神の平和 鷲のように イザヤ40:29~31

疲れた者には力を与え、精力のない者には勢いを与えられる。

若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。

しかし、【主】を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。

- 疲れることも弱ることもない神が、主に信頼する者を引き上げ、用いられる。



希望は神にある



Ⅲ. まとめと適用

信仰者には、倒れた先に希望がある

荒野を舞う鷲

イザヤ書40章の背景を確認しよう

- イスラエルが滅び、ユダが破滅に向かう時代に派遣されたイザヤ。神の召命の言葉の通り、人々は頑なになり、裁きは迫った。
- 善王ヒゼキヤの時代、アッシリアの危機は退けられたが、バビロンによる滅びの影が、エルサレムをすでに覆っていた。
- 主が告げられたのは、苦難の後にはじめて、回復が訪れること。将来の希望を告げるイザヤは、失意に打たれ、倒されただろう。
- イザヤ40章で、イザヤが力強く希望を宣言できたのは、まぎれもなく、**イザヤ自身がよくめき、疲れ、倒された**から。